

「ひろがる もっといろんな日本と日本語」Webサイトの制作 — 「自分の楽しみ」を日本語学習に—

伊藤 秀明 (国際交流基金関西国際センター)

1. はじめに

海外の日本語学習者の中には、留学や仕事のためのような直接的な学習目的ではなく、日本語を趣味として学習している者が多くいる。このような学習者からは、「楽しく自由に学習を続けられる教材がほしい」「日本語だけではなく日本の文化に触れられるような教材があれば、ずっと日本語の勉強が続けられる」などの声が聞かれる。そこで関西国際センターでは、「趣味などの『自分の楽しみ』の世界を通して、日本語と異文化理解能力の育成を支援するサイト」をコンセプトに、Webサイト「ひろがる もっといろんな日本と日本語」(以下、「ひろがる」)(<http://hirogaru-nihongo.jp>)を制作した¹。本サイトでは、学習者が興味・関心を持つ題材を通して日本や日本語に触れることで、より幅広い日本や日本語を知り、それを学習の継続につなげることをねらいとしている。

2. 開発の背景

従来の初級日本語学習サイトでは、日本語能力試験の合格を目的とした文法積み上げや日本での使用を想定した実用の日本語の学習が行なわれることが多く、日本語学習サイトを利用して学ぶ海外の日本語学習者は、実際に学んだ日本語を使う機会は十分に得られていない。また、あるレベルが修了しても次のレベルへと常に言語能力の上達を目指す方向に導かれることが多く、培った言語能力を実感したり、使用したりする場はあまり用意されていない。そのため、特に日本語学習を趣味としている場合は、徐々に学習動機が薄れていってしまうことが多い。そこで、「ひろがる」では、関西国際センターがこれまで行ってきた文化学術専門家研修の「初級でも自分の研究のことなら語れる」、教材「初級からの日本語スピーチ」(国際交流基金 2004)の「初級でも興味のある話題について話せる」、Webサイト「アニメ・マンガの日本語」の「趣味で学ぶ日本語」という特色ある研修や教材などの開発経験を活かし、日本語学習者の興味に応じたトピックで学習素材を提供する初級日本語学習者(JF日本語教育スタンダードA1, A2レベル)を対象としたWebサイト「ひろがる」を制作することとした。

3. サイト構成

「ひろがる」は、自分の楽しみを日本語学習につなげられるように、5000名を越える世界中の日本語学習者へのアンケートで関心の高かった「星・夜空」「アウトドア」「武道」「カフェ・お茶」「スイーツ」「スーパー・市場」「書道」「アニメ・マンガ」「本・図書館」「寺・神社」「音楽」「水族館」の12トピックで構成されている。また、解説言語は日本語版と英語版を用意し、ルビのON/OFFもサイト全体で使用できるようにしている。12トピックそれぞれには「トップ動画」、「記事」、「トピックと私」、「漢字」、「コメント」というコンテンツが下位に置かれ、12トピックのうち、一部のトピックには「食」というコンテンツも置かれている。本サイトでは、この12トピックを通して

ユーザーに日本や日本語に触れられる機会を提供している。

4. コンテンツ概要

4.1 トップ動画

「トップ動画」は各トピックトップの上部に置かれており、トピックと関わりのある場所や人物の動画を見ることができる。サイトのトピックイメージを与える役割も担う。動画は字幕の有無が選択できるため、自分の日本語レベルに合わせて、日本語の雰囲気を感じながら、話している内容やトピックの世界を理解し、感じることができる。

4.2 記事

トピックに関連した様々な記事を読んだり、動画を視聴したりして、一般の日本人が話す生の日本語に触れたりすることができる。また、記事の日本語は「まるごと 日本のことばと文化」(国際交流基金 2013bc, 2014abcd) の入門から初級2までの文法と語彙を基本として作成している。そのため、JF 日本語教育スタンダードの A1,A2 レベルの日本語力があれば楽しむことができるコンテンツとなっている。さらに、英語版では「Words and Phrases」というボタンがあり、上記の基準より少し難しい語彙や表現については英訳を確認することができる。

記事の内容については自分の日本語力で「読めた」「分かった」という実感を持てるように、英語版でも英訳をつけておらず、やさしい日本語で書かれた記事を読んで「全部分かった」、リアルな日本語の動画を見て「少しだけど、分かった」という2つの実感を得ることができるようにしている。さらに、記事の一番下にはクイズを設置しており、記事を読んだあとに内容を理解しているか、確認することもできる。

4.3 トピックと私

日本人がトピックとの関わりについて話している動画を視聴するコンテンツである。話している内容には「～が好き」という話はもちろん、トピックに否定的な内容もあり、日本人のトピックに対する様々な考え方を知ることができる。さらに、年齢、性別などが異なる人々が話しているので、様々な話し方に触れることもできる。また、本コンテンツでは動画内で話している内容を文字で確認することもできる。

4.4 漢字

トピックに関わる漢字を紹介することで、トピックに関連する漢字や漢字語彙の知識を増やすことができるコンテンツである。トピックの世界で使われている漢字を写真で紹介することで興味を喚起し、少しずつ自分の好きな世界の漢字に触れて漢字の知識を増やすことができる。本コンテンツでは、正しい漢字語彙を入力するタイピング練習も用意されている。

4.5 コメント欄

「自分に関すること」(例:星を見るのが好きですか。どんな時に見ますか。),「自分の国や地域に関すること」(例:あなたの国や地域にはプラネタリウムがありますか。),「日本に関すること」(例:日本のどこの星空が見てみたいですか。)の3つの質問に対して、コメントを書いたり、他の人が書いたコメントを読んだりすることで、世界中の人とつながることができる。コメントを利用して自分の気持ちを発信するだけでなく、日本やいろいろな国や地域の文化や考え方について知ることができる。コメントは日本語で書くことを前提としているが、質問に対しての答えの例文も「ヒント」ボタンで確認ができるので、3つの中の答えられそうなものからユーザーは日本語でコメントを書くことに挑戦できる。

4.6 食

トピックに関連する食べ物の写真と食べた時の感想や思い出を短い日本語のテキストで読むコンテンツである。食べ物への興味は海外の学習者からの関心も高かったため、「アウトドア」「武道」「カフェ・お茶」「スイーツ」「スーパー・市場」「アニメ・マンガ」「寺・神社」「水族館」の8つのトピックに本コンテンツを置いた。それぞれのトピックに合わせて、「アウトドア」なら「外で食べたもの」、「スーパー・市場」なら「食べ歩きのもの」などテーマが決まっており、トピックに合わせて気軽に楽しむことができる。本コンテンツの英語版の「Words and Phrases」では、食べ物に関連する言葉をリストにしているため、日本の「食」に興味を持つユーザーが語彙や表現を学ぶこともできる。

5. サイトの工夫

「ひろがる」では日本語学習のための様々な工夫がなされているが、ここでは「トピック」「更新型」「繋がり」「『わかる』『できる』実感」「学習サポート」の5つの観点について述べる。

5.1 トピック

「ひろがる」では日本語学習者の興味が日本語学習の動機づけにつながると考え、日本語学習者が「好きなこと」に関するアンケートを、国際交流基金海外拠点の日本語講座受講生および「WEB版エリンが挑戦！にほんごできます。」サイトの登録ユーザーに行い、その結果から本サイトでは「アウトドア」や「スイーツ」などの12トピックを選定した。この選定方法は、日本語を学習するためにふさわしいトピックは何か、という発想ではなく、学習者の好きなものを学習素材にできないか、という発想でトピックが選定されているため、従来の日本語教育ではあまり扱われてこなかった特色あるトピックが学習素材としてのトピックとして選定されている。

5.2 更新型

これまで開発されてきた日本語学習サイトは完成された形で公開されるものが多く、情報が更新されるものはあまり多くなかった。しかし現在、インターネットの普及により世界中の情報を得ることは容易になっているため、本サイトではサイトを更新型とすることで、海外にいても比較的リアルタイムな日本の情報や様子を学習素材として学べるようにした。また、今後の運用においてもユーザーのニーズに合わせたサイト作りを行うことができるよう、ユーザーからのリクエストフォームを設置し、積極的にユーザーの声を取り入れる工夫を行った。

5.3 繋がりを感じる

近年、SNS等の普及によりインターネット上のコミュニケーションは活発化している。しかし、インターネット上での家族・友人間のコミュニケーションは活発化していても、会ったことがない日本語学習者同士がインターネット上で繋がりを持つ場は限られており、その場が用意されていたとしても、それはファンサイトなどの非常に閉じられたコミュニティの中でのコミュニケーションとなっている。そこで本サイトでは、動画にユーザー同士がおもしろいと思ったところを共有できる「Good ボタン」(PC版のみ)を設置している。これにより、本サイトを閲覧しているユーザー同士が「どこがおもしろいと思ったか」を共有することができるようになっている。

さらに、各トピックに4.5で述べたコメント欄を設置することで、トピックに関する考えという共通の話題を担保した日本語を利用したコミュニケーションの場を確保している。これにより、日本語に自信のない学習者は動画のGood ボタンで他のユーザーと繋がりを感じることができ、積極的に他のユーザーとの繋がりを作っていきたい学習者は、コメント欄でさらに意見を交換することができるようになっている。

5.4 「わかる」「できる」実感

本サイトは一般の情報サイトのような作りとなっているが、その中で使用される日本語レベルは対象である A1,A2 レベルの日本語学習者でも理解できる日本語レベルに配慮している。そのため、世の中にある一般的な情報サイトよりも「わかる」実感を得られやすいように工夫した。また、「漢字」や「食」のコンテンツでは上述の日本語面での工夫に加え、写真のみ、写真と短いテキストなど、気軽に短い時間で閲覧できるコンテンツとすることで、短時間での自己効力感を得やすいようにも工夫している。

5.5 学習サポート

本サイトでは3節で述べたように、サイト全体でルビ表示の有無をユーザーが選択できるようにしている。また、学習に関わる部分は英語版であっても、あえて翻訳しないとの方針を採用している。そのため、「記事」のコンテンツは英語版であっても日本語のままであり、各種ボタンや語彙サポート部分のみを翻訳している。また、日本語学習者のモバイル端末の普及率も高まっている（伊藤ほか 2016）ことから、デザイン面ではレスポンスデザインを採用しており、PCやモバイルで同じように閲覧できる環境を作り出している。

6. 今後の課題

「ひろがる」は本稿で述べたように、従来のサイトには無いコンセプトで制作された日本語学習サイトである。しかし、本サイト自体は2016年8月に公開されたばかりであり、このコンセプトがユーザーにどのように理解され、どのように利用されていくのかはこれから評価されていくものである。そのため、今後の更新においても、ユーザーが求める日本語教育的価値を含んだ情報を提供できるよう、ユーザーの声を第一として、ユーザーの世界が広がるサイトを目指していきたい。

注：

注1：本サイトは石井容子（国際交流基金関西国際センター）、前田純子（国際交流基金関西国際センター）とともに制作を行った。

【参考文献】

伊藤秀明・石井容子・武田素子・山下悠貴乃（2016）「日本語学習者のネット利用状況と学習サイトへの期待—海外11拠点の調査結果から—」『国際交流基金日本語教育紀要』第12号、97-104.

国際交流基金（2013a）「海外の日本語教育の現状—2012年度日本語教育機関調査より」くろしお出版

国際交流基金（2013b）「まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 かつどう」三修社

国際交流基金（2013c）「まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 りかい」三修社

国際交流基金（2014a）「まるごと 日本のことばと文化 初級1 A2 かつどう」三修社

国際交流基金（2014b）「まるごと 日本のことばと文化 初級1 A2 りかい」三修社

国際交流基金（2014c）「まるごと 日本のことばと文化 初級2 A2 かつどう」三修社

国際交流基金（2014d）「まるごと 日本のことばと文化 初級2 A2 りかい」三修社

国際交流基金関西国際センター（2004）「初級からの日本語スピーチ—国・文化・社会についてまとまった話をするために—」凡人社

アニメ・マンガの日本語 <http://anime-manga.jp/> 最終閲覧日 2016年7月29日